

秋季支部予選会について 意見集約

回答校数 40校……北信(○●)：19校 東信(△▲)：4校
南信(□■)：8校 中信(◇◆)：9校

(1)「現行の4支部での予選会継続」に対して

- 賛成です。全国大会を見ても県によって参加校数の差は異なります。指導者側が考えているより、生徒側からは加盟校数不公平という問題は出てきません。このままでよいと思います。
- 可能な限り現在の4支部での予選会を継続していただきたい。初戦で敗退しても敗者復活戦で勝利すれば県大会出場となる支部があるようであれば、春の大会同様、各支部ベスト4校を県大会出場とすることも再考願いたい。
- 賛成です
- 現行の4支部で予選会を継続して行うべきだと考えます。
- 賛成。運営面からも望ましいのでは。通学区的にもよい。復活代表決定をなくし、各地区4チームの県大会出場に戻せば1回戦敗退チームが県大会出場はない。
- 特に変更の希望はないので、現行の方式の継続に賛成します。
- 賛成で、現状のままでいいと思う。
- 特に問題は無いと思う。
- 県大会出場までの試合数が地区によって大きく変わるのはいくつか。現行の方式では、今後高校間の統廃合によって初戦が代表決定戦となるケースが出てきたときに、その試合に負けたチームが敗者復活戦に勝利し県代表になるのは違和感を持つ。
- 変更やむなし
- 高校再編・県大会出場割合から言っても、変更を考える時期にあると思います。
- 反対！理由は、県大会出場割合が北信は5校に1校、東信は3校に1校というのは不公平感がある。
- 不公平感を感じる。
- 各支部加盟校数のアンバランスから改革をする時期に来ていると思います。
- 不均衡是正の方針で進む方がよいと考えます。
- 16チームを切ったら、さすがに無理。
- 24校出場を続けるならば継続は難しいと思われます。
- 加盟校数の差があり、不公平感があることは否めない。
- △賛成
- △継続する
- ▲変更やむを得ず
- 現行通りでよい
- 4支部あるので、加盟校数の差はあるが現行の形がいいのでは
- 歴史的、地理的な状況から見て、長野県の4地区態勢は確立されており、これを崩しては世論の合意は得られない。春秋は4支部予選を堅持すべきと考える。
- 賛成
- 特に問題はないと思います。
- 16校以下での地区6校代表はどうかと思いますので・・
- 問題あり。
- 予選会にてシード権を確保しても、本戦で同チームと初戦から当たるのではシードの意味がない。(シードを取らなくても同様である)

- ◇現行通りの運営でも良いと考えます。
- ◇県大会出場のありがたみ(価値)があり、移動時間の考慮も考えると、継続もありと考える。
- ◇現行の予選会の方式(各支部県大会出場枠6校)をできるだけ継続して欲しい。
ただし、統合等で一部の支部の学校数がかなり減少し、あきらかに地区による不公平感が生じる場合は(2)の案にせざるをえないと思います。
- ◆総合や連合チームなどでチーム数が減少していく中で、各支部の不均衡は明らかであり、継続は難しいと考える。
- ◆加盟校数にばらつきがあり、妥当ではない
- ◆本来の予選会の意義は敗者復活戦で果たされると思うので、秋季大会において敗者復活戦が行われるのであれば反対。
上記以外のシステムとして、【第1案】1の改訂
予備戦をリーグ戦 → シード校については、4(3)回戦(代表決定戦)からの登場にして、敗戦でも敗者代表決定戦に。また、24校にての県大会でのベスト16を春季大会の代表枠に反映させる(付加条件をつける)
例) 127回ベスト16 北信5校・東信3校、南信5校、中信3校を
128回秋季県大会各地区枠とする
- ◆加盟校数による不均衡を是正する必要があるのであれば、改変を要する。

(2)「東北信・中南信の2ブロックに統合してのブロック予選会」に対して

- 現在の各地区の加盟校数のアンバランスの解消としては良い案だと思う。県大会も2地区で開催しているので、試合会場への移動も見通しが立つと思われる。日程により、各地区の優勝を決めることができないようであるが、他の(3)・(4)・(5)の案と比較して合意を得られる案である。
- 秋季支部予選会は4地区の1位を決める大会ではなく、春の選抜大会に出場するチームを決めていく大会である。長野県全体の競技力向上という点でも良いと思う。
- これからの何年かを考えると、「案」の中ではベストかと思います。役員・運営では、2支部の調整、敗戦後の監督の役員勤務も必要でしょう。支部の準決勝・決勝がなくなることで収入減の大きさも覚悟が必要。
- これになるなら構いません。反対はしません。
- 賛成です。
- 賛成する。AシードやBシードの決定方法、及びCシードの選出基準が明確であり、良い。ただし、Cシードを選出する場合の3連戦の可能性はなくすべきと考える。新チームが結成して2ヶ月弱のチームにおいて3連戦は危険ではないか。生徒の安全面に十分配慮した大会であるべき。もちろん、2連戦なら安全かというところではないと思うが、少しでも負担を軽減する配慮は必要かなと。北信越大会や北信越長野県大会も2連戦までの日程になっていることを考慮し、試合日程については考えるべき余地があると思う。
- 「日程や会場の問題がクリアできれば」という条件付きですが、この方式が現実的かと思います
- チーム数を考えると、一番ベターな方法と思う。
- この案で実施するならば予備戦の実施の有無も検討してもらいたい。東北信合同の予備選は移動等かなりの困難があるチームも出てくるため絶対にやめてもらいたい(合同チームは参加できない可能性がでてくる。)
- 校数を均等にするという観点からすれば、賛成。

○大会運営が上手くできるのであれば、良いと思う。

●この方式の場合、各4地区の1位校以下の順位が明確になりません。今後も長く郷土や地域から愛される高校野球であるためには、その目的・理念に課題があると考えます。同時に運営の面で、選手、関係者、学校応援団、保護者等の負担が大きくなることを心配します。

●反対！理由は、

①移動距離が伸びることにより、試合時間によっては宿泊を余儀なくされる学校が出てくる。

②部長が試合日に一日勤務と従来通りなら、慣れない他支部の球場での勤務となり大変である。

●2ブロック統合は地域的にも広すぎ、運営面で支障がありすぎると考えます。

●飯山高校対小海高校 白馬高校対阿南高校のような対戦が考えられるので、思い切って(3)の方法に移行してみてはどうでしょうか。

●反対。移動が長くなり、運営面でも苦しくなるのでは。

●反対：それぞれの支部によって細部における運営方法が異なり、運営上の負担が大きい。

△現実的

△良い

▲反対

▲移動距離が長くなることは問題

□是非、実施して欲しい。

長野県の野球の考え方は非常に遅れている。他県で実施されていることを真似するのではなく、県としての新たな方針を打ち出す事を期待する。

選抜大会の予選であるならば、敗者戦を導入することも必要であり多くの公式戦を経験することも長野県高校野球のレベルアップにつながる。

以上のことからこの予選会の実施を強く希望する。長野県のレベルを上げるためには必要なことではないだろうか。

□大きな改革を期待する。そのためには(2)は非常に意味のある方法であると考える。

■考慮する必要があるが、単なる数合わせにすぎない。地域性を大切にすることや、甲子園(選抜)を目指す大会と位置付けるならば(1)か(3)が妥当だと思われる。

■運営上の問題や会場の問題、宿泊を要するチームが出てくるなど、問題点はかなりあると思う。

■ちょっと理由は明確でないですが気がひけます。

■「各支部の参加校の不均衡」が「不公平感」につながるということを実感している学校は皆無だと考える。「不公平感」があるとするれば、その支部に県大会出場が毎回ほぼ確実にされる有力校をいくつも抱える、公立を中心とする他の学校にあるということではないか。説明されていることとは別の思惑を感じざるを得ない。当案には反対である。

■問題あり、反対。

■現行の方法でも負けたチームにもチャンスがあるということはあると思いますが、基本的には勝ったチームが選抜に出るという考えに基づくのがよいのではないのでしょうか。

◇予選会の敗者復活戦の実施の仕方をもう少し練ればブロック制は良い案だと感じる。

◇2ブロックに統合にしとも良いと考えます。

◇基本的に賛成。予備戦は廃止とし、「二回負けなければよい」というWBC方式を薦めたい。二回の試合の中で一回は必ず球場を使用するものとする。入場料、審判員の問題はあるが、加盟校数の不均衡、シード戦をやる意義は解消される。

◇将来的には、こうならざるを得ないと思います。私学の数のバランスを考えてもいいのではないのでしょうか。(上記2ブロックに分ければ、そのバランスも比較的均等になる。) 球場などの割り振りは、高速道路がある現状ではさほど問題にはならないと思います。

◇加盟校数による不均衡是正を目指すのであれば是とする。

◆県大会でのシード校という意味合いがうすれ、実力校の選考としては不十分

◆予選会でも決勝・3位決定戦まで行いたい。順位を明確に決めた方が良く考える。

◆宿泊を伴う可能性が高いので反対。

準決勝、決勝という舞台は選手を成長させる絶好の機会(選手起用においても、負けが許される公式戦は絶対的に必要)だと考えるので、それが無い大会には反対。

上記以外のシステムとして、【第2案】2, 4の改訂

予備戦については、【第1案】または、なし

予備戦実施の場合、シード校にあたる可能性のあるチームを少なくする配慮有りの場合、レスリング方式による第3第4代表の決定

(3)「選手権同様、全県一区での予選会」に対して

○反対はしません。

○可能であれば、この案にも賛成です。

○日程や役員勤務等運営上難しい面は多いですが、最終的に選抜甲子園大会に繋がるという意味では、形としては一番すっきりしていると思います。

○わかりやすく非常に良い提案であると思います。

○一番はすっきりしていて、一番理想的なのではないかと思う。ただし、日程の問題、球場確保の問題、移動等考えなくてはいけないことがあるとは思いますが。

○力のあるチームを北信越大会に送るという点からは良いと思う。

主会場によっては有利不利が出るのではないかと。

初戦で強豪校とあたるかも知れないのは、気になるころではある。

●組み合わせによっては前泊しなければならず、その費用負担をまかなうのが難しいので反対。

●実際無理。予算・運営面で厳しすぎる。

●この方式は、様々な負担が大きいので夏の大会のみで良いと考えます。

●反対！理由は、宿泊を伴う大会は選手権のみで良い。大変である。

●地域的にも広すぎ、運営面で支障がありすぎると考えます。

●長距離の移動にかかる負担を考えれば、避けていただきたい。

●反対。移動が長くなり、運営面でも苦しくなるのでは。

●反対；この時期としては運営上の負担が大きすぎる。

●日程・会場・移動など、多くの障害が考えられますので、非現実的だと考えます。

●まずは、上記の2ブロック方式でよい。

●論外だと考えます。

▲反対

▲移動が難しい

▲規模が大きすぎて厳しい

□(1)がダメな場合は(3)がよいと思われる。

- 難しいと思う
- 日程がとれないのではないかとありますが・・・
- 夏をもう1回やることは、あらゆる面で不可能だと考える
- 問題あり、反対。
- 日程的にも早い段階からの実施が必要である。
役員にも負担が多くなる。
真の強いチームを上の大大会に進出させるだけならば良いと思う。
選抜大会出場に向けての多くの学校に可能性を持たせるならば難しい。
- 運営が大変であり、難しいのではないかとおもいます。
- ◇移動距離を考えず、また、開催期間などの課題をクリアできれば実施は可能である。
- ◇全県一区での予選会でも良いと考えます。
- ◆日程、距離を考えても厳しい。
- ◆難しい。
- ◆必要ない。
- ◆運営サイドから考えると、夏の選手権（特に二次戦を運営する地区）だけでもかなりの負担を感じます。あまり賛成できる案ではありません。
- ◆宿泊を伴う可能性が高いので反対。
1敗で上位進出の権利を失う大会については反対。
- ◆開催日数の面からも実施は難しい。

- (4)「加盟校数に準じ、県大会出場校数を比例配分した4支部での予選会」に対して
- 方法・収入・大会運営全般を考えると、現行に一番近い改正案だと思いますが、東信の了解を得ることが大前提。
 - 反対はしません。
 - 賛成！理由は県大会出場割合が北信は5校に1校、東信は3校に1校というのは不公平感がある。
 - 賛成です
 - 4つの案はどれも問題点を含んでいるが、中ではこの案が妥当であると考えられる。
例えば、東信の1校 → 北信へ
 - 2ブロック制が困難だと見込まれる場合は、比例配分制にするのが良いと考えます。
 - 現時点では一番実現可能な気がします。予備選ありきで考えてもらいたくはありません。ただ球場への移動距離等も勘案し慎重に議論してもらいたい。
 - 賛成。不公平感はなくなると思う。
 - 選手が1試合でも多く球場でできる機会が増えるのであれば、比例配分等も賛成いたします。
 - 配分や各地区の大会日程等が煩雑になり、事務局の負担が増すので反対。
 - この方式の場合、(2)と同様に各4地区の1位校以下の順位が明確になりません。今後も長く郷土や地域から愛される高校野球であるためには、その目的・理念に課題があると考えます。同時に運営の面で、選手、関係者、学校応援団、保護者等の負担が大きくなることを心配します。
 - 北信が多く、東信が少ないという事になると思われませんが、難しい問題とも思います。
 - 比例配分は公平性からすると納得できる部分もありますが、選手権大会も校数が平均化されていなくても県単位で実施していますので、加盟校数に準じた比例配分までの必要はないと考えます。
 - 日程が煩雑になり、運営に不公平感が強くなるのではないかと。

- 小数点以下の数字の扱い（少数→整数）でトラブルの原因になると思います。
- レベルが高いと思われる東信地区が一番少なくなるのはおかしいのでは。
- 上記の2ブロック方式にすれば不要。
- ▲反対
- ▲県大会のレベルを考えると難しい
- ▲数だけ見て公平というのは問題。ある支部の県大会出場校数が少ないと聞くと、中学生の選択肢はそこと避けるかもしれない。人数不足に悩む学校はより不足することが予想される。
- 比例配分はよいと思うが、反対意見が多く出るのでは・・・
- 5つの中ではこの案かも知れませんが、どうか・・・。でも、東信こそ有力校が多く・・・
- 「各支部の参加校の不均衡」による「不公平感」がもしあったとして、それを是正するならば、この方法が最善と考える。
- ある程度のバランスは必要ではないか。
- 検討の余地なし
- 問題あり、反対。
- 南信を見ると、加盟校は多いが、現状の6校で十分だと思います。
- ◇1番この形が自然だと考えるので賛成。
- ◇予測される不公平感の増大を抑えることを目指すのであれば賛成。
- ◆加盟校の少ない支部は出場校数がおのずと少なくなるため、成長段階のチームのチャンスがなくなってしまうのでは。
- ◆比例配分に関しては、本校は反対です。
- ◆地区ごとにばらつきがあり妥当ではない。
- ◆公私立の学校数も、各支部で異なることもあり反対。
- ◆（2）の案が難しければ、次の案がこれだと思います。ただし、現状でいくと出場校数が減らされるのは中信や東信であり、公立高校の立場から考えると、この案では私学の壁がさらに厚く感じられます。

- (5)「支部の境界線を変更し、加盟校数を均等化した新たな4支部での予選会」に対して
- 該当になりそうな高校を内々で知らせて、意向を聞いてから審議を開始すべきでしょう。
 - これまでの地域的なつながりがあり、反対。高体連との地域的な区割りの統一性が崩れてしまうのも良くない。
 - 面白いとは思いますが、そうすると私立校の数なども考慮しなければならなくなるのではないかと考えます。難しいと思います。
 - 通学区及び行政区に従わない境界線は課題があると考えます。
 - 北信であれば更埴地区？なのかと思いますが・・・意見の出しづらいところです。
 - 反対！理由は、大きな変革で組織が変わってしまうということです。組織が変わるということは人や物が変わるということで色々な問題が生じます。長野県の長年に渡ってきたこの4支部の伝統は守って欲しい。
 - 長い歴史から見ても、支部の境界線を変更するのは、境界線付近のどの学校を移すかが、困難だと考えます。
 - 長野県の現状を考えれば、北信・東信・南信・中信の基準に沿った形で運営の方策を考えていくことがよいと考える。
 - 北東南中の現在の支部を壊して、新たに支部の作り直しをするくらいの思いで行っていただきたいと思います。又道路事情も良くなってきたので2支部体制でよいと思わ

れます。

- (2)と同じ。大会の時だけ境界を変えるのはおかしい。常に変えるとしても、野球だけとなると混乱が起こるのでは。
- 反対：境界線を変更するということは、新たに組織を作る必要があり、組織に対する影響が大きい。また、どこの高校が移動するかについても問題で、不平等感が否めない。
- 現実的でない感じがします。
- そこまでして4支部にこだわらなくてよい。
- 今後の統廃合・チーム存続が可能な学校の数の見通しが立たない中で新たに4支部を作るのは、難しいのではないかと思います。
- 新たに境界線を引くにしても、どこで引くのか。校数が均等になったとしても、今後またさらに統合・合併が進んで、また不均衡になることも考えられる。各支部がここまで培ってきたものを崩してしまうことまでする必要はないのではないか。
- 高校野球だけ一般と違う区分けをするのは紛らわしいと思う。
- ▲反対
- ▲境界線を引くことが難しい
- ▲区切りが難しい
- 賛成
- 検討の余地なし
- 均等化することは良いことだと思うが、どこに境界線を引くのが難しいと思う
- 何となく気がひけます
- (4)に準じる内容だが、難しいと考える。理由は(1)に記した通り、歴史的、地理的な状況から見て、長野県の4地区態勢は確立されており、これを崩しては世論の合意は得られない。春秋は4支部予選を堅持すべきと考える。
- (4)と同じではあるが、今後の変化によりその度に対応をしなければならない。学校を選択する基準も考える必要がある。長期的に考え難いと思う。
- 境界線の引き方が難しいのではないかと思います。
- ◇支部の境界線を変更し、加盟校数の均等化を図り、地区ごとに決勝まで行うことで、県大会のシードにつながり、県大会も充実し、実力校が県代表になれる
- ◇境界線の変更に関しては、良いと考えますが、全県一区ではないのに、松本から三才山を越えていくことは厳しいです。境界線に関して各チームの理解が得られる範囲でしたら良いと考えます。
- ◆支部の変更をするにあたっては、学区などとの関係から混乱が生じてしまうのではないか。
- ◆境界線そのものに賛否がありまとまらないと思われる。
- ◆高校再編の今後の動きや、毎年の大会参加校数が変わることからも意味がない。
- ◆長野県の地理的なもの考えると、新たな4支部の線引きは難しいと思います。私学の数のアンバランスを解消するのも結局は難しくなると思います。
- ◆事務局等の関係もあると思うので、現実的だとは思わない。反対。
- ◆他団体等の関連からも独自の区割りは馴染まない。

(6) その他

○各支部の準決勝・決勝が消滅した場合、大会収入減がどの程度の額になり、年間予算にどの程度影響が出るか、数字ではっきり示してほしい。

→ 現在の4支部方式での決勝や3決の最終日を行わないことになる。

平成24年度125万円位（25年度は雨天順延等により大幅減収）

2ブロック案では、敗者復活戦が県内で6球場分増×収益10～30万円となり収支的には増減はほとんどないと予想される。

○結論的には、各支部より4校を県代表とし、16校で県大会を実施する、以前の形に戻す。

○県大会出場校を4校に戻したらどうか。県大会へのチャンスを広げるという意図は分かるが、校数が減ってきている現状の中、そのことが県全体のレベルアップにつながっているのかをよく吟味するべきだと思う。

○県大会への上場校を6校から4校に戻して欲しいと思っている。

◇(1)～(5)までの案がありましたが予選会の方法はどんなものでもかまいません。また予備選についても、背番号をつけて行う試合であり選手にとっては貴重なものだと考えます。ただ、県大会出場チームが現在の数よりも減るということは是非避けていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○予選をやることのメリットがあまり見えない。支部役員の負担や8月上旬にある学校行事、補習等を考慮すると、廃止の方向にすべきと考える。

○予選会におけるシード校の立ち位置は重要だと考える。現行の予備戦（一発勝負型トーナメント）でのシード校決定でよいか。力のあるチームが上位大会へ進出していくことを考えるなら予備戦から考える必要があるのではないか。予選会を工夫していくことで力のあるチームを上位大会へつなげていくことができるから予備戦は現行のままという議論もあるかとは思いますが。

□秋の大会の会場は4地区で1球場ずつ、予備選は現行通りの形でも仕方ないと思われる

◇敗者復活戦をするなら、予備選はいらない。逆に、予備選をするならば、敗者復活戦はいらない。

◇本案件が「不公平感」の是正を意図するためのものであることに鑑み、予備選の実施方法の再検討をお願いしたい。予備選を選抜に繋がる予選会のシード決めと位置づけるのであれば、選手権大会出場チームの参加が不可能などという事態は避けるべきである。

□(3)に関して、シード決定の大会に関しては、現予備選の継続を検討しても良いのでは。

□シード8校→16校へ変更し実施する。

□ア) 北信4、南信4、東信4、中信4を決め、南信、中信の敗者復活で4校、北信、東信の敗者復活で4校 計24校

イ) 北部、中部、南部に分け、3地区×8代表=24校の方法も・・・

◇予選会充実のため、北信越の本大会を10月最終週にしてほしい。

【臨時理事会】

- ・この場で結論を出すのは難しい。この場で結論を出すのではなく「加盟校への投げかけをしてみてもいいか」という提案。今後加盟校の意見も聞いて時間をかけて検討していく。
- ・「学校数の不均衡」以外の現行のマイナス点があれば教えて欲しい
基本的には不均衡是正が変更案の主眼
地区の加盟校数に比例して県大会出場枠の配分をする形はよくない
理由…力のあるチームの可能性を閉ざしてしまわないように
予選会日程編成上の不都合
- ・もう少し学校数が減ってきてから考えてもよいのではないか。支部毎にやっていることのよさもあるのではないか。
- ・選手権のようにヤグラに入る地区をあらかじめ決めておかないと、補助員の手配等に困難が生じる。
- ・対戦校の地域による球場入れ替えは現実的には非常に困難
- ・ブロックの範囲が広がると、天候不順などの際に日程調整が困難になるのではないか。
- ・県大会に出られる機会を増やすことが本当に生徒のためになるのかどうか？
- ・今までのように、秋が早く終わってしまうという問題は解消できるのではないか。
- ・学校数がこれ以上減少するようだと、現行制度を問題視する声は出てくると思われる
- ・出場できる可能性が増えるのはよいことだが、地域とのつながりという点では現行の地区制度の方がよいのではないか
- ・日程が直前まで決まらない状態で、選手のモチベーションが保てるかどうか心配
- ・これからの長野県の高校野球のあり方を考えていく中で、何を主眼において考えるべきか、という基本に立ち返るべき
- ・24校制の実施により、支部毎の不均衡がクローズアップされるようになった。不均衡を是正していくという意思統一が図れれば、どうすればよいかを積極的に議論していきたい。結論はともかく、加盟校にも意見を聞いて議論をしていくための叩き台にしたい
- ・提案が具体的すぎて加盟校から既定の路線であるような誤解される可能性があるのではないか。→ある程度具体的なものがないと議論がしにくいと考えて提案した
- ・現段階では、16校が24校になっただけで十分ではないか。今後学校数が今以上減少するような状況になった時に改めて考えてもよいのではないか
- ・まず最初の議論として加盟校の中で「支部ごとの不均衡」が問題視されているのかどうかを確認し、問題だということであれば具体例を示して議論してもらえばよい。
- ・既定路線だという印象を与えないような資料の提示方法を考えてほしい。
- ・考えられる可能性…現行通り
 - 東北信。中南信に統合
 - 選手権同様全県一区
 - 比例配分
 - 地区割りの境界線の変更